

Ⅲ オートプシー・イメージング (Ai) の実際

6. 法医放射線医学センター：野口記念国際画像診断クリニック
画像鑑定業務とネットワーク医療
——オンラインとオンサイトの融合システムの実現

佐藤 俊彦 株式会社メディカルリサーチ顧問医

法科大学院の増設により、弁護士の過剰供給が問題となっている一方で、新たな医療訴訟分野へのシステム整備が必要とされており、法医放射線医学センターを虎ノ門にオープンすることにした。医学的な見地から、医療訴訟の迅速化や精度管理を実施する必要があるため、遠隔診断インフラを利用して、弁護士と医師の医療連携を企画した。

2011年2月にメディカルリサーチ社を設立し、診断業務にあたってきたが、弁護士とのテレカンファランスや面談の必要性から、診療所を開設してオンサイトでの連携も模索したい。

■ 設立の目的

メディカルリサーチ社は、クラウドコンピューティングによる医療ネットワークを活用し、生・損保会社・弁護士・調査会社などに対し、医用画像による鑑定や医学意見書・医学鑑定書などのサービスを提供している。医療調査を初動段階からサポートすることで、医学的根拠に基づいた保険金給付やAiを可能とする。「画像診断の活用範囲拡大を図るとともに、診断専門医と臨床医が連携してすべてのサービスをワンストップで提供し、医療サービスの応用発展・向上を目指す」会社である。

■ 設立経緯

約10年前に、メディカルリサーチ社の現社長である宮澤裕一氏から、保険会社から自動車事故を中心とした損害評価・鑑定の全国組織が設立できないかとの相談があったことや、放射線専門医から、「画像を見ることで高い精度の鑑定・評価が可能だ」との話を聞いたことをきっかけに、画像診断による評価・鑑定サービスの提供を始めた。その後、生・損保会社から依頼を受けるようになり、それまでの10年の医療コンサルティングの経験をもとに、ネットワーク医療による医療調査サポートサービスを提供する目的で設立した。

■ サービス内容

画像診断、意見書・鑑定書作成、事案相談サービスのほか、医学・医療関連情報の提供、医療調査にかかわる助言・支援、医療機関・施設の紹介といった医療調査サポートサービス、およびCD・カルテ・写真等のファイルをデジタル化して一元管理するデータベース化サービスを提供している(図1)。

サービスの特徴は、画像鑑定のスペシャリストが事故態様と整合性を検証しながら精密なレポートを作成しているほか、Ai(一般財団法人Ai情報センター・山本正二代表理事との提携による)など特殊性の強い画像診断にも対応していることだ。また、後遺障害認定や病態の分析・評価、係争事案などについて、診断専門医の立場からの見解を意見書にまとめて提供するとともに、診断専門医と各専門領域の臨床専門医が連携して鑑定書作成を行っている。これら医療調査にかかわる各種依頼の総合窓口を設置して、医療調査をサポートしている。

現在、調査の初動段階での画像調査サポートに力を入れている。医療調査では、画像診断によって問題点が明確になるケースが多く、例えば、転倒した場合、事故によるものなのか、病気によるものなのかは、画像である程度ははっきりする。そこで問題点が見つければ、調査コスト削減につながる。また、外傷性と判断された場合でも、調査に無駄な時間をかけずに対応することができる。画